

輸出の効果

『和牛輸出が日本の和牛生産等に与える
効果等の調査研究報告書』（2024）
神戸大学大学院農学研究科 上田修司
八木浩平

- 農産物の輸出は、需給調整を通じて、国内価格を下支えする効果を持っていると
言われている。
- 牛肉について2008年～2023年のデータを統計処理して、牛肉の輸出の効果を試算
して次のような結果を得た。
 - ① 牛肉の輸出増加は、A3～A5ランクの国内牛枝肉卸売価格を有意に上昇させる
効果がある。
 - ② 2023年の牛肉輸出により、A3～A5ランク牛肉の
枝肉卸売価格を339.9円/kg(13.9%)、うちロイン輸出により188.9円/kg(7.7%)
生産額を1,050億9,956万円(20.5%)
下支えしている。

⑤ 輸出拡大への対応

- 現状では輸出先国における販路は限定的
- 輸出の過半はロイン



- ・輸出先国との解禁協議
 - ・輸出対応施設の整備、施設の稼働率向上の工夫
 - ・輸出先国における販売網の拡大促進
 - ・ロインとあわせて、非ロインのカタ、バラ、モモ等のプロモーションの促進
- 等を進めることによって、更なる輸出拡大を推進すべきではないか。

【6. 牛肉の流通】

食肉処理施設の現状及び課題

- 食肉処理施設においては、**労働力の不足、施設の老朽化、稼働率の低下等による経営状況の悪化が課題。**
- このような課題を解消し、食肉の流通合理化を図るため、**食肉処理施設の再編整備を推進。**

食肉処理施設の種別施設数の推移

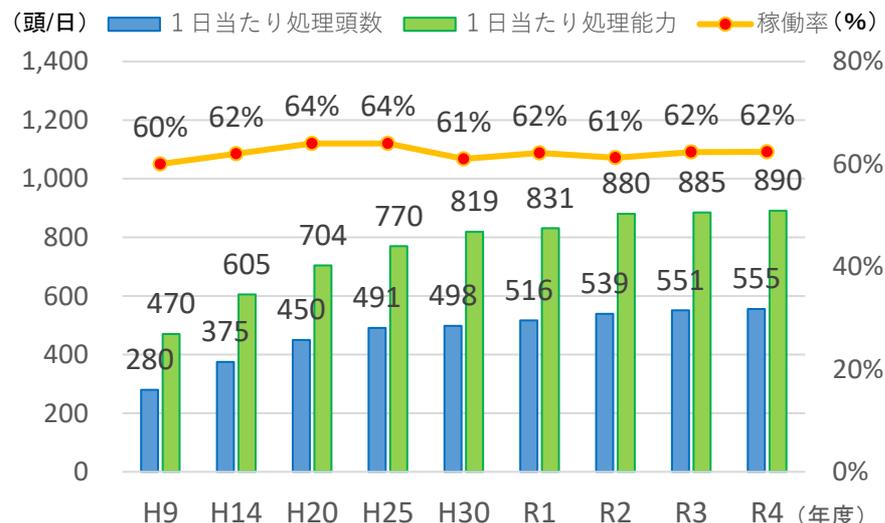
種類	施設数					
	H9	H14	H20	H25	H30	R4
と畜場 (と畜のみ)	202	132	99	92	63	50
食肉センター (と畜+部分肉加工)	87	80	73	71	88	86
食肉卸売市場 (市場機能を有する)	29	28	27	28	32	31
合計	318	240	199	191	183	167

資料：畜産物流通統計（現在公表されていないH9、H14及びH20については、当時引用した数字）
注：酪肉近における稼働率等の算出で使用している施設数とは異なる。

【参考：酪肉近で定める目標値等】
食肉処理施設の稼働率の目標

	現状 (H30年度)	目標 (R12年度)
稼働率	61%	70~90%

食肉処理施設の稼働率、処理頭数、処理能力の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計(R5)」、厚生労働省「と畜・食鳥検査等に関する実態調査(R4年度実績)」を基に、農林水産省にて作成

再編合理化後の1日当たりの処理能力、処理頭数のイメージ

	現状(H30年度)	再編合理化後
1日当たりの処理能力	819頭/日	1,000頭/日以上
1日当たりの処理頭数	498頭/日	700~900頭/日以上